

目的 乳児の衣服に対する苦情は母親や保母等からよく聞くところであるが、計測の困難さより乳児の各部身体寸法の情報を詳細に得て設計に役立てられている例は少ない。今回生後0～12カ月児までの乳児の裸寸法を得ることができたので、まず成長の縦断的身体寸法について報告し、乳児服設計の基礎資料とすると共に、多方面の利用にも供したい。

方法 1980年より1984年にわたり病院、保健所、保育園、里親施設において男児503名、女児516名、計1019名の仰臥位計測を行った。計測は47項目にわたっているが、そのうち26項目を選び、男女別に主成分分析を行って、月別の体型の特徴を把握した。

結果 1. 身体寸法の月別変化を平均値で見ると、全項目が0～12カ月間で増加を示している。長径項目の平均増加量が0～12カ月にわたって大きいのに対し、周径項目は0～3カ月で著しい。特に最大増加量を示すのは、主として1～2カ月間である。

2. 各項目のサイズ設定のめやすを得るために、12カ月児を基準とした百分率成長曲線を求めると、0カ月児ですでに80%を示す項目は頸付根囲、臍囲、頭囲であり、成長の緩慢さを示すと同時に0カ月児から他項目に比し大きなサイズを要求していると考えられる。

3. 主成分分析によって、多項目間の総合的情報の月別変化を求めると、才1主成分は月数を増すごとに漸増し、才2主成分は0～3カ月まで急増したのち横ばい状態を示した。この傾向は男女児とも同様の結果であった。このことより、乳児服の寸法設定の為には、0～3カ月と4～12カ月とに体型区分することが妥当と考えられ、この区分によって回帰式の推定検討を行った。